

平成30年度 日向市立塩見小学校学校関係者評価書

4段階評価・・・4：期待以上      3：ほぼ期待どおり      2：やや期待を下回る      1：改善を要する

～元気・感謝・夢や希望～

『元気』を全ての基礎として、「子ども」が夢や希望をもつ学校、「教職員」が自信をもって教育する学校、「保護者」が信頼を寄せる学校、「地域社会」が共に見守る学校を目標にして学校経営にあたる。  
その土台の基に、ふるさとを愛し、自分に自信と誇りをもって、将来に向かって力強く『生き抜いていく力』を身に付けた児童を育成する。

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己 評定	学校評議 員評定	学校評議員コメント
体たくましく健康な を育成する	1 家庭と連携しながら生活リズムを整え、基本的生活習慣の定着を図ります。	・ 家庭と連携した「げんきファイル」や「ゲーム0の日」の取組自体はすっかり定着してきたが、基本的生活習慣が身に付いていない児童も少なくない。 ・ 繰り返し児童・保護者に働きかけた結果、むし歯治療率は現在で95%に達している。欠席0の日は1月末で26日であるが、無欠席の児童も多い。個人差も大きいので保護者に対しても更なる意識の啓発が必要である。 ・ 朝の体操、家庭での運動、体育の授業における工夫改善等により、体力テストでも全体的にレベルアップが図られ、「体力づくり優良校」に選ばれた。 ・ 栄養教諭を中心とした給食指導、また残食調査や地産地消交流給食会の取組を行ったことにより、偏食が減る等、食に関する子どもたちの意識が高まった。	3	4	○ たくましい体づくりに向けて無理なく楽しく取り組んでいる様子が見える。取組の成果、また結果として県の「体力づくり優良校」に選ばれたことは大変素晴らしいと思う。 ○ インフルエンザ感染時期においても、手洗い・うがいの徹底、マスク着用、換気、お茶うがいなどの取組により大きな感染に至らず良かった。無欠席への意識を児童・保護者共に高めていきたい。 ○ 「ゲーム0の日」による意識付けは素晴らしい。しっかり守る子、守れなかったけどいつもよりゲームの時間を少なくした子等、様々だとは思いますがぜひ続けて欲しいと思う。
	2 自らの健康意識を高め、元気でたくましい体づくりの習慣化を図ります。				
	3 体力テスト等の結果や個々の体力の実態をもとに、課題となる基礎体力のレベルアップを図ります。				
	4 食に関する教育を計画的に行い、栄養教諭等と連携し、よりよい食習慣の定着を図ります。				
を思いやりと感謝の心 をもった豊かな心を育成する	1 いつでも、どこでも誰にでも気持ちのよいあいさつや返事ができる態度を育成します。	・ あいさつや返事については個人差はあるものの、アンケート結果からも気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきていると言える。 ・ 6年生の「塩見レンジャー」の取組の効果もあり、廊下を走る児童は確実に減ってきている。ただ、下校の様子等を見ると安全への意識が高まっているとは言えない面も見られるので、今後も引き続き指導に当たっていきたい。 ・ 学習指導等支援教員が中心となって、教職員の人権・同和教育研修や児童への人権学習を計画的に実施することができた。また、人権意識を高めるための掲示啓発資料にも力を入れることができた。 ・ 今年度も日向ひまわり支援学校や障がい者支援施設「しおみの里」との交流活動や校内での様々な取組により、公共心や思いやりの心の育成に取り組んだ。	3	4	○ 昔から塩見小の子ども達は元気良くあいさつしてくれる。あいさつは人とのコミュニケーションの基本となるので、誰にでもあいさつできるような指導を今後もして頂きたい。地域でも指導していきたい。 ○ 6年生を中心とした「塩見レンジャー」の取組は今後も続けて欲しい。 ○ 支援学校との交流など、思いやりの心を育んでいく取組も塩見小学校の良い特色であり、今後もぜひ続けて欲しい。 ○ 集団登校では、上級生が下級生を優しく世話をしあっている姿をよく見かける。さらに下校の指導にも力を入れて欲しい。
	2 学校や地域での安全生活の意識を高め、危険予知能力を育成します。				
	3 人権・同和教育の取組を通して望ましい人間関係づくりを図り、自他ともに大切にすることを育成します。				
	4 全教育活動を通して道徳教育の積極的な推進を図り、公共心や思いやりの心を育成します。				
確かな学力の向上を目指す 基礎・基本を身に付けさせ、	1 個々の学力把握と分析を基に基礎・基本の定着を図り、学力の向上に努めます。	・ 職員研修の中で年度初めに児童の学力分析を行い、本校児童の学力向上に向けてどのような取組が必要かを協議し、各学年の実態に応じた取組や「お助けティーチャー」等の全職員による組織的な取組を進めることができた。 ・ 県が示す「授業改善の4つのチェックポイント」を意識しながら、日々の授業改善に取り組み、授業の質の向上に努めてきたが、さらに基礎・基本の確実な定着を図っていく必要がある。 ・ 保護者アンケートの結果を見るとまだまだ十分ではないものの、「親子ふれあい読書」「全校一斉読書」「本の紹介コーナー」「保護者・一般の方への図書貸出」等の取組により、昨年度より図書貸出冊数も確実に向上しており、本に親しむ児童が増加していることがうかがえる。 ・ 毎学期、「家庭学習チェック表」を基に家庭学習週間を設けたり、「ふれあい学力アップタイム」を通して、上級生が下級生にアドバイスをしたりするなど、家庭学習の質を高めてきたが、まだ個人差が大きい。	3	3	○ 学校と家庭がよく手を組んで学力向上に取り組んでいる。中学校に進学した際に他の小学校の生徒と切磋琢磨していけるよう、今後もしっかりと学力向上に取り組んで欲しい。 ○ 学力向上の土台が学校の授業等であることは言うまでもないが、家庭での学習への取組でも差が出ると思う。今後は保護者への気付き、働きかけも積極的にお願いしたい。 ○ 本の読み聞かせの取組や図書館の利用が多くなっていることは大変良いことである。今でも十分伝えていると思うが、本を読むことの大切さを今後も子ども、保護者に伝えて欲しいと思う。
	2 授業のねらいやまとめを明確にし、指導方法の工夫・改善を図り、一人一人が「できる!分かった!」と実感できる授業実践に努めます。				
	3 読書活動を充実させ、本への親しみと豊かな表現力の育成に努めます。				
	4 家庭との連携を密にして家庭学習の定着を図り、個に応じた支援の充実に努めます。				
家庭・地域との連携	1 「塩見まちづくり協議会」との連携を深め、家庭や地域と一体となって、児童の健全育成を図りながら、地域に関わられた学校づくりを推進していきます。	・ 「塩見まちづくり協議会」との連携を図りながら、地域の神社の夏祭りや例大祭、塩見ウォーク等への児童の参加を積極的に呼びかけることができた。 ・ 11月の地域交流活動、また普段の学習の中で、保護者や地域の方にたくさんのご協力をいただき、キャリア教育を積極的に推進することができた。また、今年度はお世話になった方々を招いての感謝集会も実施することができた。 ・ 学校通信「ひよっこ」は月1回発行し、保護者以外にも学校評議員、区長、安全監視員等にもお届けした。ホームページの定期的な更新を通して、学校の取組や子ども達の様子等を保護者や地域の方に積極的に発信することができた。	3	4	○ 「塩見まちづくり協議会」の活動並びに学校との連携の様子が素晴らしい。地域の行事に子ども達の積極的な参加の姿が見られて良かった。 ○ 地域の行事に子どもが参加することで、3世代交流ができ地域の活性化につながる。住みやすい塩見として子ども達に認識してもらえれば、人口減の対策にもなると考える。 ○ PTA活動への積極的な参加を今後、さらに期待したい。 ○ 学校通信「ひよっこ」やホームページのおかげで月の行事等、学校の様子が分かり有難い。
	2 地域に根ざした世代間交流活動を、積極的に展開していきます。				
	3 学校での教育活動の様子を、学校通信やホームページ等で広く発信していきます。				
小中一貫教育	1 中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿」について、自校の教職員は全て共通理解している。	・ 日向中校区の3校(日向中・富高小・塩見小)が目指す学校や児童生徒の姿を、「日向中校区グランドデザイン」にまとめ、学期1回の小中連携合同研修会において共通理解を図ることができた。 ・ 家庭や地域への啓発が不足していた。今後、学校通信「ひよっこ」等を利用して家庭・地域へ情報発信をしていきたい。 ・ 小中連携合同研修会における4つの班において、児童生徒の実態をもとに小中学校共通の取組をそれぞれ定め、共通実践することができた。 ・ 取組によっては「目指す児童生徒像」に近付きつつあるが、全体としてはまだ十分に変容が感じられるまでには至っていない。	2	3	○ 小学校と中学校が情報交換や共通実践に取り組みながら、連携を密にしていることで、児童が中学校に進学する際の不安を取り除いたり、入学後の中学校生活に早く慣れたりすることにつながっていると思う。 ○ 中学校での活動の様子を見ると、小中一貫教育に取り組んでいることにより、2つの小学校がうまく1つになっていると感じる。また、3校それぞれに相乗効果が生まれているのではないかなと思う。 ○ 目指す児童生徒像の一つである主体的に動く子どもが育つことで、社会に出た時に活躍できるのではないかなと思う。
	2 中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿」について、家庭や地域もほぼ理解している。				
	3 中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿」を実現するために、小中学校で共通して実践している事項がある。				
	4 小中一貫教育の取組によって児童生徒は確実に変容し「目指す児童生徒の姿」に近づいてきている。				
《次年度の方向性について》 ○ 今年度、課題として残った部分について取組方法を工夫して強化していくとともに、良かった部分についてはさらに向上させていってほしい。 ○ 知・徳・体に渡り家庭との連携の在り方も良く、また各家庭も全体的によく協力していただいていると思う。子ども達の成長のためにも、次年度はさらに積極的な協力やPTA活動に期待したい。					